



お話をお伺いした方

シャープ株式会社 コーポレート統括本部  
CSR推進部 企画グループ 副参事

おかだ あつし  
岡田 淳 さん

日頃の担当業務	社会貢献活動(環境保全や社会福祉、教育支援など)に関わること
モットー	「熱意」 何でも一生懸命やる。 精一杯仕事し、まわりに感謝することを日々重ねながら人格を磨く。
趣味	ゴルフやジョギングなどのスポーツ、読書、音楽鑑賞
休日の過ごし方	趣味の時間として活用したり、庭いじりなどでリフレッシュ

## シャープ株式会社における社会貢献活動

### 御社の社会貢献活動で、特に力を入れておられる分野は何ですか。

シャープ株式会社では、経営理念の中に「広く世界の文化と福祉の向上に貢献する」と謳い、社会貢献活動をその具現化のための取り組みのひとつに位置付けています。

実際の業務においては、「経営理念」「経営信条」を実現していくための、より具体的な行動原則・行動規準として、「シャープグループ企業行動憲章」、「シャープ行動規範」が制定されています。

この中に

- ・ 社会貢献活動に、積極的に協力するように努めます。
- ・ 地域における行事への参画・寄付・賛助などにより、地域社会への貢献に積極的に協力するよう努めます。
- ・ その他のボランティア活動にも積極的に参加し、社会貢献意識の向上に努めます。

と定義されています。

これらを踏まえ、弊社では企業市民として様々な社会的課題の解決の一助として、「環境」「教育」「社会福祉」を社会貢献活動の重点3分野と定め、社会との調和と共存をめざし、地域に根ざした活動に取り組んでいます。

### 力を入れている分野では、具体的にどのような取り組みを行っておられますか。

「環境」分野では、様々な活動の母体として、労使が共同で運営する社会的にもユニークな環境ボランティア団体「シャープグリーンクラブ(以下、SGCと言う)」を2003年に発足し、10年目を迎えました。

SGCは、シャープグループ全従業員一人ひとりが身近な環境問題と向き合い、自らの環境保全意識の高揚を目指すことを目的として、活動に取り組んでいます。このSGCの枠組みを活用して、大阪府岸和田市のアドプトフォレスト神於山を含む「シャープの森」づくりや「ラムサール条約湿地での保全活動」、「クリーン&グリーン活動」に取り組んでい

ます。

また、**2004年11月**より、従業員の環境ボランティア活動の費用を賄う事を趣旨として、従業員が利用する紙コップ飲料の収益の一部を財源とする取り組みも実施しています。



「教育」分野では、全国の小学校を対象に環境教育やものづくり教育を実施しています。

「環境教育」では、クイズ、実験などにより、子どもたちが楽しく学んで、地球環境を思いやる心を育み、環境を意識した生活習慣を身につけるお手伝いをしています。

「ものづくり教育」ではシャープの社員が身近な製品を例に講義や製品の分解を通し、技術や知恵など「ものづくり」の楽しさや夢についてわかりやすく授業します。

「工場見学&環境/ものづくり教室」では、工場やシャープミュージアム(天理)の見学を環境教育やものづくり教育を組み合わせで行います。

直近では、「社会福祉」分野とも重なる特長的な取り組みとして、「特別支援学校等へのキャリア教育」を実施しています。当社の特例子会社「シャープ特選工業」の障がいのある社員が講師として聴覚支援学校を訪問し、授業を行ったり、同社の見学、職場体験実習等を通じて、職業観や勤労観を育てていただきます。

「社会福祉」分野では、キャリア教育の支援活動に加えて、障がい者の社会参加、自立に繋がる支援に取り組んでいます。例えば、先ほど触れました「シャープ特選工業」は日本で第1号の特例子会社となっています。また、事業所近隣、および東日本大震災被災地の福祉施設製品の事業所内での定期的な販売等も行っています。

## その取り組みの成果、また社内での反応はいかがですか。

環境分野では、これまでのSGC活動に延べ約**25万人**の従業員が参加しています。そのうち、神於山での活動は延べ約**2,000名**を超えています。

これらのSGC活動に対しては、現在まで社外から**12回**(経済産業大臣賞**1回**)の顕彰、感謝状を頂いています。

また、**2006年**から開始した「環境教育」では、実施校数延べ**3,230校**、受講児童数延べ約**19万人**に上り、教育活動全体では延べ約**4,300校**延べ約**21万人**(**2013年11月末**現在)の子ども達に授業をしたこととなります。

社会的な反響として、「特別支援学校等へのキャリア教育」等も含めて**11回**(文部科学大臣賞**2回**、経済産業大臣賞**2回**等)の顕彰を受賞しています。

社会福祉分野では、**2013年度**の当社の障がい者雇用率は**2.44%**(法定雇用率**2.0%**)を確保することができました。

また、障がい者の就労機会をご提供させて頂いている福祉施設製品の販売は**15事業所**で実施しており、**2012年度**は延べ**282施設**の方々が販売してくださっています。

これらの取り組みの社内での反応として、活動参加者の業務へのモチベーションの向上や、自らの社会性の醸成に繋がっていることがうかがえます。

### 大阪での森づくり活動

#### アドプトフォレストに参加されたきっかけを教えてください。

先述のSGCは、**2003年**に発足したのですが、当時 環境保全に関わるボランティア活動を地元で行いたいと思い、大阪府に相談に伺ったのが活動開始のきっかけです。

ちょうどアドプトフォレスト制度が立ち上がる時期で、大阪府とシャープ株式会社の思いが重なり、アドプトフォレスト第1号として調印させて頂き、活動を開始するに至りました。

## アドプトフォレストに対する、社内での評判はいかがですか。

神於山シャープの森では、月2回「グリーンサポーター」として登録されているボランティアによる活動を実施しています。

毎月活動をしているため、参加者の間で新しいコミュニティができて、楽しく活動を続けて頂いているようです。

大阪府に本社を置く企業として、地元へ貢献出来る意義深い活動として、社内でも認知されています。



## アドプトフォレストの成果や、活動に取り組んで良かったと思える点は何ですか。

神於山を含め全国に12ヶ所あるシャープの森ですが、その活動の目的は3つあり、

- ①「人と地球に優しい企業」として、自然・生物多様性を保全すること。
- ②企業市民として、地域に根ざした社会貢献・環境保全・里山保全等を行うこと。
- ③自然保護の大切さを体験を通じて学ぶ事によるボランティアマインドの醸成。としてしています。

基本コンセプトとして、「森・生きもの、人の繋がりを理解し、絆を深め、地域社会への優しい心を育む事」としてはいますが、最近では生物多様性保全をより前面に打ち出して、神於山では、「フクロウの棲む森づくり」のコンセプトの下で活動しています。

シャープの森づくりのイメージは、「四季折々の変化を楽しむ森」「多様な生物が生息する森」「人の生活と結び付きを持つ森」など、様々な側面を持つ

た活動とも言えます。

特にアドプト制度を活用した神於山での活動は、全国のシャープの森の中でモデル的な森として、ここでトライアルした取り組みを横展開しています。

これはこの制度に取り組んでこそ得られたものだと思います。

## 岡田さんは、業務以外の場面で森林や山に親しんだ経験はお持ちですか。

休日に趣味で走るジョギングのコースになっている森林を通り抜ける位ですが、子どもの頃はボーイスカウト活動に取り組んでいた事もあり、キャンプやハイキングに良く出かけました。

神於山で連携しているNPO「神於山保全くらぶ」の方に伺ったところ、子どもの頃に自然に触れ合った体験があると、成長して大人になっても自然に触れ合うようになるそうです。

弊社でも社会貢献活動のひとつに、「シャープの森」を活用した「野外環境教室」を実施しており、子どもの頃から自然体験をするきっかけづくりを行っています。

## 森づくりを進めていく上では、長期的な視点が大切ですが、長期間モチベーションを維持するためのポイントはどのような点だと思われますか。

取り組んで行く中での目標やビジョン、それに対する成果が見える事が大切だと思います。森づくりは、最初は植樹など華々しいこともあり参加者も多いのですが、その後は下草刈りなどの地道な活動では、どうしてもモチベーションを失いがちになってしまいます。

神於山シャープの森においては、5年間の協定満了後、協定を継続する際、これまでの活動に対し、大阪府より、感謝状を頂きましたが、これはこの活動が地元へ貢献していると実感出来るできごとでした。

今後の取り組みのモチベーションとして、生物多様性豊かな森づくりを目指し、「フクロウの棲む森づくり」を新たなコンセプトに掲げています。

また、シャープの森で行っている工夫のひとつとして、植樹の際に、「植えた人の名札を付ける」と



ということがあります。自分の植えた苗木の成長を楽しみに参加する従業員も多いです。

また、これらの活動の成果が見えることも大切。本年（2013年）は「第15回日本水大賞」（名誉総裁：秋篠宮文仁殿下）という大変権威ある顕彰で、経済産業大臣賞を受賞したことは大変なモチベーションに繋がりました。

加えて、応募の際には、大阪府のご推薦をいただき、また、受賞式での松井知事からの祝電を頂戴したほか、地域の皆さんに支えて頂いていることも実感し、更なる地域への感謝の気持ちにも繋がりました。

**社内でボランティア活動等に対し、何らかの活動支援制度を設けておられれば、その内容を教えてください。**

「多目的休暇」という制度があり、年8日、ボランティア活動等で利用することができます。

また、社内イントラを通じ、年間40～50回程度のボランティア情報を掲載し、機会提供を行っています。

**これからの森づくり・アドプトフォレスト活動に対する思いをお聞かせください。**

2011年に活動5年を迎えた際、先述の通り新たな活動の目標を「フクロウの棲む森づくり」と設定しました。フクロウが来てくれる山を目指し活動を続けることは、大きなモチベーションとなりますが、その先、その目標が達成されたときのことも考えなければならぬと感じています。

また、当初に植樹した木も順調に大きくなり、間伐を考えていく時期に来ています。

木を育て、使うまでの森のサイクルを考えた場合、地域住民の皆さんや地元団体の皆さんの協力無し



には難しいですね。今後は地域をはじめ、関係する様々な団体とも連携を考えていきたいと思っています。

**最後に、大阪府アドプトフォレスト制度や森づくり活動全般に対するご意見・ご要望があればお願い致します。**

シャープ株式会社では、全国で12ヶ所でシャープの森活動を実施していますが、新しく森づくり活動を始めるに際し、課題となるのは、

- ① 活動に適した場所が見つかるか
  - ② 森づくりの経験が無い社員でもきちんと活動ができるか
- の2点。

大阪府のアドプトフォレスト制度では、大阪府や岸和田市を通じ、このような不安要素を払拭することができました。地元に着したボランティア団体であるNPO法人「神於山保全くらぶ」さんの支援や「神於山保全活用推進協議会」のメンバーとして地域の方との交流する事ができ、とても良い制度だと思っています。

これから将来に向かってずっと続けていくために、大阪府には、森づくりだけでなく、地域との橋渡しもお願い出来ればと思います。

シャープ株式会社様は、大阪府アドプトフォレスト第1号として、2006年に活動を開始されました。活動開始以来、様々な工夫を凝らしながら活動に取り組んで頂いており、活動8年目を迎えます。

フクロウの棲む森という新たな目標の達成へ向け、長期的な視点を持って取り組んで頂いていることを、心強く感じました。

インタビューア

大阪府 みどり・都市環境室 みどり推進課 森づくり支援グループ 上中 理恵子